

着々と強化される 新生動労千葉の組織体制

「千葉地本再建は、時間の問題」「中野一派の暴力支配から一四〇〇組合員を解放する」というペテンとデマで全国動員をかけた四日間の「オルグ」は、完全に失敗し、破産した。この四日間の「オルグ」を通して、動労「本部」は「動力車新聞号外」や「ピラ」等をつかって、われわれに対するありとあらゆる誹謗・中傷を行ない、動労千葉がいまにも行きづまり、崩壊するかのような極めて低劣な宣伝を行なってきた。しかし、こうしたデマ宣伝と口汚ない誹謗・中傷によって、わが動労千葉が崩壊するどころか、一四〇〇組合員の団結が一層固まり、強化したのである。そして、むしろ逆に、全国動員を行なった動労「本部」側に大きな亀裂と分裂が拡大してしまつたのである。

大きく前進した団交権!

四日間の「オルグ」を通じて、動労「本部」は、第一に動労千葉には「団交権がない」とデマとペテンをもって宣伝してきた。彼らは、『「千葉動労」の結成は、何と言つても間違つています』なる全く低劣なピラや「動力車新聞号外、その13」でも明らかのように、われわれ動労千葉が4・26(27)ストを背景として着実に前進した団交権をはじめとする労働基本権問題について「幻の団交権」であるとして、わが動労千葉の着実な前進から故意に眼を外そうとしている。

われわれは、この「団交権」問題について、動労「本部」に認めてもらうために4・26(27)ストを構えたわけではなく、国鉄当局に対して、現に動力車職場の労働者を組織し、団結しているわが動労千葉との関係を明確にさせ、労働者としての当然の権利を認めさせることが目的だったので。そして、すでに明らかかなように、われわれは、動労「本部」暴力集団からの執ような妨害と組織破壊策動をはね返しつつ、国鉄当局をして動労千葉を実質上承認し、認知せざるを得ないというところまで追い込むという大きな成果をかちとつたのである。

では、一体、国鉄当局がなぜ、わが動労千葉を承認せざるを得なかつたのか。

それは、あくまでも、一四〇〇組合員が強固な団結をもって、動労千葉の旗の下に結集しているという毅然たる事実に基づいている。動労「本部」がいかに「千葉に関する交渉は、本部が行なう」とか、「動労千葉を認めるな」と国鉄当局をどう喝しようとも「千葉鉄局管内の動力車職場の圧倒的多数の職員を組織する動労千葉」の現実と事実

の前に、国鉄当局は、いやが応でも、わが動労千葉と交渉せずには日常的業務の遂行が出来ないのである。従つて、「団交権問題」は、あくまでも、一四〇〇組合員の強固な団結力によって前進したのだということとはあらためて確認するまでもないことなのである。

当局・権力に動労千葉への弾圧を要求する「本部」暴力集団!

「オルグ」を通じて動労「本部」が強調した第二の点は、「動労千葉の暴力」というデマとペテンである。

これは、われわれが「4・11錦糸町駅襲撃事件」や「4・17津田沼事件」について事実に基づいて追及していることに対し、そのほこ先をそらすためにありもしない「動労千葉の暴力」をデッチ上げて宣伝しているということである。

しかし、その宣伝たるや、国鉄当局に対し、「もっと動労千葉を弾圧しろ!」「職場管理上、問題がある!」とつき上げるという極めて反動的なものである。

そして、動労「本部」の行なつた暴力的襲撃については、「職場の労使正常化を推進する模範的国鉄職員」としてえがき出そうとしている。

このような腐敗し、墮落した動労「本部」暴力集団がめざす運動そのものが一体、いかなるものかは、もはや明らかである。

われわれは、断固として動労千葉の正義性を守り抜き、動労「本部」暴力集団の組織破壊攻撃を断固粉碎する決意である。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「本部」暴力集団の事実をもつて答える! ペテンとデマの宣伝に